

# 令和4年度第2回長野県自立支援協議会 議事録（要旨）

令和4年11月15日（火） 13:30~15:30

長野県婦人会館 1階 第一会議室（Web会議システム併用による）

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 会議事項

## （1）専門部会等の活動状況について

- ・各部会資料に基づき説明 資料
- ・意見 地域移行について

### 長峰委員 居住支援について

・居住支援については、今年度、県建築住宅課が国のモデル事業の指定を受け（全国2カ所）、市町村居住支援協議会の立上げ推進などに取り組んでいる。県内社協が実施している居住支援サービスは、公営住宅で200件、民間住宅で100件の実績となっており一部に障がいのある人が含まれている状況。年内には、県営住宅の保証人要件等について、大幅に緩和する予定と聞いている。

・社会的養護出身の若者サポートプロジェクトでは、4~5割が何らかの障がいがある人がサポートの対象。構成団体の賃貸業者「レントライフ」は、サブリース方式で多様なニーズを受け止められるよう取り組んでおり、それをビジネスとして業界に普及させたいとの心意気で、協働している。

### 橋詰委員

・全県的に居住支援事業所少ない。全国と比べるととても少ない。連携システムを作っていくのは相談者と資源開発が必要でそれはこれから取り組むところ。

### 小林会長

- ・相談支援従事者研修の専門コース（地域移行）に今年度関わっている。
- ・地域移行では、利用者が疾患を有したり、高齢になっていくなかで、チームをしっかりと組んでやっていると感じた。このチームに関わって、情報共有等もできればよいと考えている。

## （2）県自立支援協議会の取組について

### 佐久 依田委員

・北と南で温度差があり、市町村ごとにやっている。地域に応じてやっていると思う。先駆的な地域を見習っていききたい。今日は勉強させてもらった。

### 上小 山口委員

・行政は異動があるので、センターと支援コーディネーターが要になってやっている。官民協働で動き続けているところ

### 諏訪 林委員

・第一分科会に参加した。各圏域の協議会の状況をお聞きしたが、行政の委員の方は異動がある度にゼロからのスタートで大変だが、新任であっても皆さんが賢明に地域の状況をご理解いただこうとされている意識も感じた。ただ、それでも毎年地域の福祉は止まることなく動いているので、其々の地域の体制がしっかりと確立されている証だと感じた。

・社会全体の動きの中で協議会が存在しているので、委員の皆さんには少なくとも障がい福祉の代表として、昨今の大きなニュースであったオリンピックやパラリンピックでの多様性を当たり

前に認める気運が世間に広がった点や、国連の権利条約の対日審査の内容等、障がい福祉関連のニュース等も協議会内で一考（いっこう）程度は確認し合っておくべきだと考えており、その話題から、地域の方々との接点も有るはずであり、協議会委員には随時情報を共有し、確認するようにしている。

・12月17日には合理的配慮が今後、企業にも義務化される事を鑑み、既に合理的配慮を実践されている企業様方に実践例を発表してもらうフォーラムを開催し、そこからも差別解消や、障がいがおありの方々の可能性に繋がることを趣旨として開催予定。

#### 上伊那 濱田委員

・進捗管理10月末の運営委員会があったが、フォーラムに参加し、聞いたことが参考になった。

#### 飯伊 庭村代理

・第二分科会に出席。他圏域の進捗管理のアイデアがよかった。飯伊圏域でも参考にして今後取り組んでいきたいと考えている。

#### 木曾 小出委員

・木曾圏域は、今年度から広域連合に事務局を置いて、会長に町村会の総務文教部長の町村長をあて職にする組織体制の強化を図った。これにより行政サイドの体制がある程度固定化することができ、中長期的な課題に向き合うことが可能になると考えている。

#### 長野 浅野委員

・周知期間が短くて出席してもらいたい人の調整ができなかったところが残念だった。情報の共有はしている。

・センターの中でも人の入れ替わりがあるので、協議会は身近なものではあるが、本来どのようなものなのか確認ができたのがよかった。他の地域のことを知って、自分たちの取組を振り返る機会にもなった。それをどんな風に生かしていくかまで決められていないが、心にとめていきたい。

#### よつ葉の会 青木委員

・保護者としての立ち位置は難しい。当事者は子どもであって、自分たちの立ち位置とは何かを考えながらやっている。

・「計画」など、難しい話についてはいけないところもあるが、話を聞いて、保護者としては自立支援協議会ってこんなにやっているんだという感想だった。そういった活動を見て知って、応援していくのもひとつ。（保護者会）相談に結びつかない人たちが一番最初にくるところでもあるので、つないでいくという立ち位置としては、誰がどこでどんなことをしているか知ることができるというのもひとつかと考える。

・基幹はうまく結びつけてくれている。が、チームでやれているかという点はまだまだかなという印象あり、例えば親が高齢化するとどうしていいか分らなくなっている。相談者が手をさしのべてもらいたいことを「次のステージはここかもね」と提示してもらうようなことが必要かもしれない。モニタリングに来るだけになっているのは残念だなと思っている。

#### 北信 池田委員

・専門用語から覚えるところから始まるので、慣れるまでの時間を要する。微力ながら地域で話し合っただけで地域を盛り上げていきたいと思っている。

・北信の課題は人材不足。深刻になっている。福祉の職の魅力を発信したいと考えていて提案していけたらいいと考えている。

育成会 中村委員 強度行動障がいの調査を実施していく予定。上小では橋詰委員主導で意見

集約しているが、分らないことも多いだろう。現状と実態を一日も早く知りたいと考えている。そして正確な数値を積み上げてもらいたい。

#### 丸山会長

・強度行動障がいと医ケアのプロジェクトが地域ごとに立ち上がって、実態調査している。今後その結果を持ち寄った話し合いができるのではないかと。現状が分かって、どうして行けばいいのか話し合いができるのではないかと。

・官民協働でやっていくのが基本のキ、今年度「一年生」で来た人に自立支援協議会の基本のキを学んでもらえたのはよかった。ただ、これを毎回県でやるのはナンセンス。これは地域ごとにやっていくべきもの。毎年年度の始まりで、理念と役割を話すことが必要。地域間の情報共有は参考になる。成果物を共有し、プロセスを参考にしてほしい。

(3) その他

4 閉会